TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

主は王である 獣を野放しにしてはならない！
ヤコブの手紙 3:1-12

2022 年 11 月 26 日&27 日
余沢　武 牧師

I. はじめに

こんにちは。再来週の 12 月 10 日と 11 日に「主の晩餐」を行います。今年はクリスマスイブが土曜で、クリスマスが日曜ですね。

そこで、24 日はイブ礼拝を 2 回、17 時と 19 時に行い、19 時をライブ配信します。クリスマス当日の礼拝は 4 回で 9 時、11 時、15 時、17 時です。11 時をライブ配信します。

ご家族やお友達を誘うのに、チラシをこの奥に用意しています。

ヤコブの手紙で死んだ信仰とは、自分と違う兄弟姉妹、何かを必要としている兄弟姉妹を愛さないことだと学びました。今日は、どのように私たちの言葉から「信仰の成熟度」を測れるかを見ます。まずは、祈りましょう。

II. 獣を野放しにしてはならない！

(1) 取扱注意

ヤコブの手紙 3:1-2「[1] 私のきょうだいたち、あなたがたの多くは教師になるべきではありません。知ってのとおり、私たち教師はより厳しい裁きを受けるのです。[2] 私たちは皆、度々過ちを犯します。言葉で過ちを犯さないなら、その人は体全体を制御することのできる完全な人です。」

聖書は私たちに互いに仕えなさいと教えています。ですから、様々な奉仕を通して誰かに仕えることは良いことです。しかし、ヤコブは言います。「すぐに飛びつかない方がいい奉仕がひとつある。人を教えることだ。」

私は獣医学部を出た後、大学院で学びました。その後、町田の動物病院でインターンとして働きました。様々なことをする機会が多くありました。時々は患畜（かんちく）の子犬や子猫を診ることもありました。犬猫が主でしたが、時にはカメやウサギ、鳥、ハムスターなど他の動物も相手をしました。ペットトリマーが忙しい時は、犬のシャンプーをして、爪切りや毛をとかしたりもしました。しかし、一つだけ、上司が許可しないことがありました。

インターンとして許可されないのは、一人で手術をすることでした。助手はつとめましたが、一人で執刀はしませんでした。なぜでしょう。手術をすることは、荷が重いと分かっていたのです。動物の生死がかかるからです。だから、許可されませんでした。

教会で人に教えることも同じです。ヤコブは教師になることは、荷が重いと知っていました。人の生死がかかるからです。ヤコブによると教師は**「より厳しい裁きを受けるのです」**。だから**「多くは教師になるべきではない」**のです。

教えるということについては、偽の教えがいつも懸念されます。しかし、ヤコブが気にしていたのは私たちが**「言葉で過ちを犯す」**ことでした。私たちの話す言葉がクリスチャンとしての証を台無しにし、また聞いている人の人格や生活にも影響することがあるからです。

ヤコブは直接言っていませんが、もしかしたら今まで説明していたえこひいきや差別が、教師の言葉や態度のせいだったのかもしれません。

教師の言葉に愛がなければ、学ぶ人たちも愛がなくなります。教師の言葉が批判的であれば、学ぶ人たちも批判的になります。

一方で、教師の言葉に愛があれば、学ぶ人たちも愛を持ち始めます。教師の言葉が謙虚であれば、学ぶ人たちも謙虚になります。

だからこそ、多くの人は教師になるべきではありません。成熟している、愛情深い、謙虚な人、特に語る言葉と態度がそうである人だけが教師になるべきです。

（2） 舌の持つ性質

ヤコブの手紙 3:3-5 前半に続きます。「[3] **馬を御するには、口にくつわをはめれば、その体全体を操ることができます。** [4] **また船を見なさい。あのように大きくて、風に激しくあおられていても、ごく小さな舵によって、舵取りの望む方に操られて行きます。** [5] **同じように、舌も小さな器官ですが、大言を吐くのです。**」

ヤコブに言わせると、私たちの言葉はくつわであり舵でもあります。

馬のくつわはとても小さいものです。しかし、馬がどこに行きたがっても、くつわが行く場所を決めます。

船の舵もとても小さいものです。しかし、風が船をどこへ行かせようとしても、舵が行くところを決めます。

私たちの言葉も同じです。私たちの言葉なんて大したことないと思うかもしれません。しかし、私たちがどのような人になりたくても、どのような人生を送りたいと思っても、私たちの言葉がどのような人になり、どのような人生を送るかを決めます。

批判的な言葉を吐きつづければ、私たちは批判的な人々になり、人生は不満ばかりが溜まっていきます。愛のある言葉を話し続ければ、私たちは愛情深い人達になり、人生は愛で満たされます。

そうなる理由はこれです。イエスは、口が語るのは**「心からあふれ出ること」**だと言いました **（ルカの福音書 6:45）**。私たちの言葉はただの言葉ではないのです。私たちの心からあふれ出ているものです。

クリス・グレイの著書「Stories for the heart（心に残る物語）」に掲載された話があります。毎日ある老人がガソリンスタンドのロッキングチェアに腰かけ、町を訪れる人に挨拶をしていました。ある日、孫娘も彼の隣に座っていたときでした。

二人は背の高い男性がキョロキョロしているのを見ました。新しい引っ越し先を探しているようでした。その男性は二人に「ここはどんな町ですか？」とたずねました。

老人は彼に「どんな町から来たんだね？」と聞き返しました。「私の居た町は、お互いに対して批判ばかりだったよ。みんなうわさ話ばかりしてたね。出てきてせいせいした。」老人は「この町も似たようなもんだな。」と言いました。

一時間後、家族連れがガソリンスタンドに寄りました。父親が老人に「ここはどんな町ですか？」と聞きました。老人は彼に「どんな町から来たんだね？」と聞き返しました。

「私の居た町は、みんな親密でいつも助け合ってました。出て来たくなかった。家族みたいだった。」老人はほほ笑んで「この町も似たようなもんだよ。」と言いました。

そこで、孫娘は老人に聞きました。「おじいちゃん。最初のおじさんには、ここは住みにくいところだって言ったのに、なんで今のおじさんたちには住みやすいところだって言ったの？」

老人は彼女にこう答えました。「どこに引っ越そうが、自分の態度は変わらん。それこそが人生を良くも悪くもするんだよ。」

私たちの態度や言葉が、私たちがどんな人生を歩むかを決めます。そして、私たちが牧師や教師であっても、またはただ友人に教えるだけであっても、私たちの態度や言葉、人格や生活が、相手の生き方を影響します。

ヤコブの手紙 3:5 節後半-6 でヤコブはこう続けます。「[5b] **見なさい。いかに小さな火が大きな森を燃やすことか。** [6] **舌もまた火です。舌は、私たちの体の器官の中で、不義の世界を成しています。それは体全体を汚し、人生の歩みを焼き尽くし、自らもゲヘナの火によって焼き尽くされます。**」

ネガティブな言葉や態度は人生を決めるだけではなく、小さな火が大きな森を焼き尽くすように人生を破壊するのです。体全体にしみつき、人生そのものを焼き尽くします。地獄の使者、サタンの使者であり、私たちを破壊します。

（3）舌を治める

ヤコブの手紙 3:7-12「[7] あらゆる種類の獣や鳥、地を這うものや海の生き物は、人類が治めており、また治めてきました。[8] しかし、舌を治めることのできる人は一人もいません。舌は、制することのできない悪で、死をもたらす毒に満ちています。[9] 私たちは舌で、父なる主をほめたたえ、また、舌で、神にかたどって造られた人間を呪っています。[10] 同じ口から、賛美と呪いが出て来るのです。私のきょうだいたち、このようなことがあってはなりません。[11] 泉の同じ穴から、甘い水と苦い水が湧き出るでしょうか。[12] 私のきょうだいたち、いちじくの木がオリーブの実をつけたり、ぶどうの木がいちじくの実をつけたりすることができるでしょうか。塩水が甘い水を生むこともありません。」

神がこの世を創造されたとき、**創世記 1:28b**でこう言いました。**「産めよ、増えよ、地に満ちて、これを従わせよ。海の魚、空の鳥、地を這うあらゆる生き物を治めよ。」**

ほとんど、私たちはその通りにできています。魚、鳥、動物を家畜化して治めました。鷹やライオン、ゾウも治めました。ただ、ひとつ例外があります。人間の舌です。

私たちの舌は止まらない悪です。半分治めつつも、すぐにでも元の状態に戻ります。ある瞬間には神を讃えて、次の瞬間にはその讃えた神の似姿に造られた兄弟姉妹を罵ったり、批判したりします。

さらにひどいことは、私たちは問題があるという自覚がないことです。私たちは相手に問題があると思っています。ヤコブは**「このようなことがあってはなりません」**と言います。私たちは甘い水と苦い水を、愛の言葉と批判的な言葉を同時に出すことはできません。

オリーブの実を成らしているなら、私たちはイチジクの木ではあることはありません。
イチジクを成らしているなら、私たちはブドウの木ではあることはありません。
海水が出ているなら、私たちは淡水の泉であることはありません。

批判的や愛のない言葉が出ているなら、私たちは謙虚で愛のある成熟したクリスチャンであることはありません。信仰の深いクリスチャンは簡単にひどい言葉を使いません。

「Sayings of the Desert Fathers（砂漠の父のことわざ）」は 4 世紀から 5 世紀の書物はキリスト教修道院の修道士とその指導者とのやり取りの記録です。修道士は「心が休まりません。ここを去りたいのです。」と指導者に言いました。指導者は「なぜだね？」と聞きます。

「兄弟の不名誉な話を聞いたのです。」と修道士は言いました。指導者は「その話は真実かね？」と聞きました。修道士は「はい、その話をした兄弟は信用できる男です。」と答えました。指導者はこう言いました。「いいや、信用できない。信用できる男は、そんな話を人にしないものだ。」

誰かのうわさ話や批判をし、家庭や職場や教会で煩わされていながら、自分自身の批判的で愛のない心を煩わしいと思わないのであれば、私たちは自分の舌と態度も治める必要があるということです。

しかし、ヤコブは**「舌を治めることのできる人は一人もいません。舌は、制することのできない悪で、死をもたらす毒に満ちています。」**と言います。では、どうしたらいいでしょう？ 聖書は**「主の前にへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。」**と言います。イエスに呼びかけ、自分を変えるよう赦しと恵みを求めましょう。それがクリスチャンとして成熟していく方法です。

まだクリスチャンでない方は、ぜひイエスに赦してもらい、自分を変えるように求めてみてください。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

奉仕者募集中！

1．週末礼拝メッセージ翻訳者
1か月半に1度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語を日本語へ翻訳します。

2．日本語字幕オペレーター
月１回～各礼拝の時間（特に３時、５時の礼拝募集）の字幕のページをめくる奉仕です。英語を聞いて日本語がどの翻訳部分かわかる程度の英語力が必要です。操作は矢印キーを押すだけの簡単なものです。

3．日本語字幕作成/オペレーター
月１回～土曜日16時～
プロプレゼンターというソフトで翻訳された原稿を字幕に落とします。操作は簡単で1回のトレーニングで作成できるようになります。作成に1時間くらいかかります。その後19時からの字幕オペレーターもお願いします。

4．日本語レイアウト&印刷（女性募集）
月１回～土曜日16時～
TBCに来て作業します。この今見ている紙を作成してもらう作業です。ひな形に翻訳された原稿を入れて、読みやすくレイアウトし、印刷してもらいます。MS WORDが使える女性を募集しています。英語力不要

連絡先（ひろみ）：
hiromik@tokyobaptist.org

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg4822jp

★クラス 101
メンバーシップクラス
11月27日（日）13：00～17：00
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu